

# バードリサーチ ニュース

2012年4月号 Vol.9 No.4



Phasianus versicolor  
Photo by Watanabe Yoshiro

## 活動報告

### ツバメの駅プロジェクト開始します！

神山和夫

ツバメは人通りの多い街中の商店街などに巣を作るというイメージがありますが、幹線道路沿いに作られた商業施設も一日中人の賑わいがあり、ドライブの途中に立ち寄ってみると、よくツバメの姿をみかけます。そこで2010年と2011年に「道の駅とサービスエリアのつばめ調べ」を行ったところ、報告のあった道の駅の66%、サービスエリアの50%でツバメの営巣がありました(図1)。ツバメの巣がないという情報はあるという情報よりも集まり難いでしょうから、少し割り引いて考えないといけません。街中にあるスーパーの営巣率が14%程度(八王子・日野カワセミ会による2001~2003年の八王子市内全域のツバメ調査をもとに算出)であることを考えると他の商業施設に比べて道の駅やサービスエリアの営巣率は高そうです。

またこの調査を通して、ツバメを大切にしている施設がある一方で(写真1)、巣から落ちる糞が利用者の迷惑になるため、ツバメの巣を落としてしまう施設もあることが分かりました。

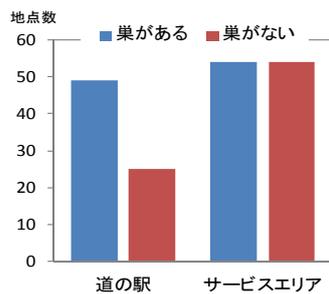


図1. 道の駅とサービスエリアのツバメの巣の有無。(2010 & 2011年の「道の駅とサービスエリアのつばめ調べ」より)



写真1. ツバメのための掲示と糞受のある道の駅八王子滝山。

することに成功していますが(2007年8月号参照)、今度はツバメでそれを試みようというわけです。道の駅のようにツバメが集団営巣する場所では少ない労力でたくさんの巣に温度ロガーを設置できるので、緯度や標高の異なる地域の道の駅を調査地にして比較を行えば、気候がツバメの繁殖に与える影響を調べることができると考えています。



写真2. 古巣を使った温度ロガーの設置試験。巣の底の土を少し削ってボタン電池型の温度ロガーを埋め込んだ様子。この上に巣材を戻しておきます。

### 人工巣の開発

そして次に計画なのが、ツバメが気に入ってくれる人工巣の開発です。商業施設では出入口に巣を作られると特に困るようで、すき間に詰め物をしたりネットを張ったりして巣作りを防いでいるのをよく見かけました。そういう場所にツバメが巣を作らないようにすることは仕方がないと思います。ですが、その上で、巣を作っても迷惑にならない場所にツバメを誘導できればより好ましいと思います。そこで、巣を作られては困る場所で造巣防止の対策をやりつつ、巣ができて困らない場所に人工巣を設置するということをした場合に、うまくツバメたちを誘導できるのか、という実験を予定しています。人工巣の開発は、そのためのものです。この他にも、脱着が簡単な糞受を作成したり、ツバメの営巣に理解を求めるポスターを作成して道の駅庄和などで使っていただく予定です。このプロジェクトでは、ツバメと人との共存のための方法を開発し、それを普及していくことを目指しています。



図2. ツバメへの配慮を呼びかけるポスター。

### 温度ロガーで繁殖ステージ調査

そこで、このような施設でツバメの調査と保護を進めようと、ツバメの駅プロジェクトをスタートします。今年は埼玉県春日部市の道の駅庄和に協力していただいて、いくつかの実証実験を行ないます。

まず4月始めに、道の駅庄和に残っていた22カ所の古巣に温度ロガーを埋め込みました(写真2)。バードリサーチでは巣箱の中に温度ロガーを設置して繁殖の様子を記録

### ツバメの里さんを親募集中！！

ツバメの駅プロジェクトは、皆様からの寄付金により実施します。支援して下さる方は、下記ホームページの「里親募集中」のリンクをたどってください。

ツバメの駅プロジェクトのホームページ

[http://www.tsubame-map.jp/1\\_michi/index.html](http://www.tsubame-map.jp/1_michi/index.html)

# 活動報告

## やっぱり調査は日の出頃が一番！

植田睦之・平野敏明

昨年5月のニュースレターで、埼玉の東大秩父演習林のライブ音聞き取りから、鳥のさえずりが日の出時刻前後に一番活発だったということをご報告しました。とは言っても、たった1か所の結果ですので、このことが、全国普遍的にいえることなのかはわかりません。そこで、北海道から高知の6か所に設置したICレコーダのデータを聞き取ってみたいので、ご報告したいと思います。この設置と聞き取りには地球環境基金から助成いただいています。ありがとうございます。

### 日の出前後がやっぱり活発

ICレコーダを設置したのは、北海道の雨龍、足寄、苫小牧、長野のカヤの平、埼玉の大山沢、高知の市の又です(図1)。4月から5月の期間を通して日の出前後が必ず含まれよう毎朝3時間のタイマー録音をして、そのうち日の出20分前から1時間後までの聞き取りをしました。聞き取りは、夏鳥渡来前から、夏鳥が揃うまでとし、場所により異なりますが、概ね4月の中下旬から5月の中下旬まで聞き取りをしました。その結果が図2です。秩父だけでなく、全国各地どこでも、やはり日の出前後にもっとも多くの鳥がさえずっていることがわかりました。そして時間の経過とともに、さえずりは不活発になっていくようです。ただし長野のカヤの平だけは、日の出前後にもピークがありましたが、その後、時間の経過とともにさえずる鳥が増えていました。なぜカヤの平だけ違うのか、その原因はよくわかりません。

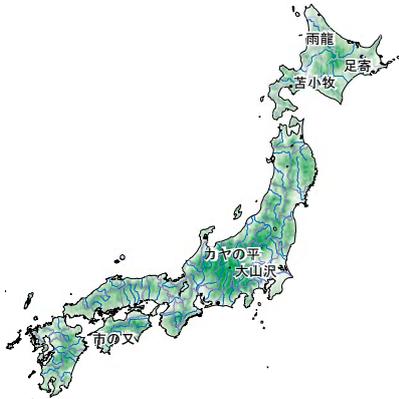


図1. 調査地の位置.

一部例外はありましたが、山の鳥の調査のためには、全国

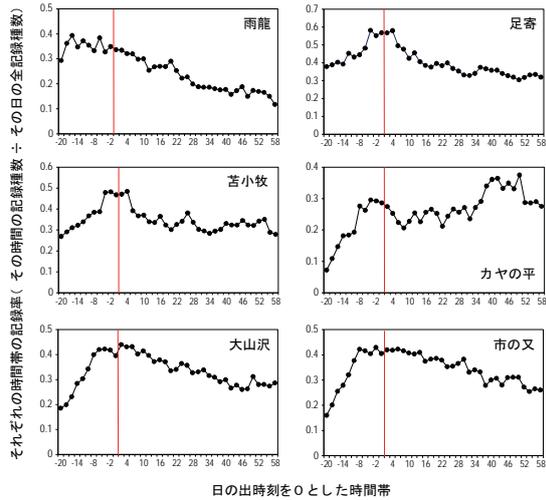


図2. 日の出(赤線)にもとづく時間帯(日の出時刻からの経過分数)と、その時間帯に記録することのできた鳥の割合。日の出前後に一番多くの鳥を記録できていることがわかる。

どこでも日の出前後が良さそうということがわかってきました。でも、その一番良い時間帯の鳥の様子を聞きたいと思っても、日の出時刻に山中に行くのはなかなか大変です。東京大学のサイバーフォレストプロジェクトの森林の音のライブ配信サービスは家に居ながらにして秩父や志賀の山中の音を聞くことができるので、気軽に日の出前後の鳥の様子を聞くことができます。今年もチャットやツイッターを使った聞き取り調査を実施しています。参加いただき、一緒に聞き取りをすると鳥の声を覚える機会になると思いますので、興味のある方はご参加ください。

聞き方はこちら

[http://www.bird-research.jp/1\\_minikuru/#live](http://www.bird-research.jp/1_minikuru/#live)

### みにクル合宿

また、ネット経由ではなく、やはり現地で生の声を聞いてみたいものです。そこで、「みにクル合宿」を企画しました。いつもの日帰りの、みにクルではなく、1泊2日の合宿形式で秩父で実施します。夏鳥もそろい、一番鳥のさえずりが活発な5月26-27日に行ないます。宿泊の都合もありますので、先着順の申込制です。夜明けからのさえずりの変化を聞いてみたい方は、ぜひお申込みください。詳細は以下のホームページをご覧ください。

[http://www.bird-research.jp/1\\_event/chichibu.html](http://www.bird-research.jp/1_event/chichibu.html)

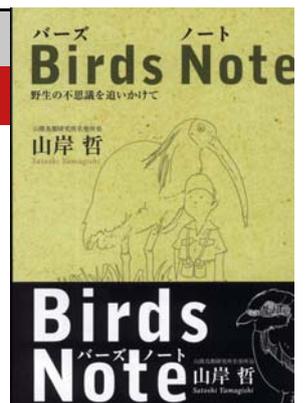
# 図書紹介

Birds Note

山岸 哲 著 / 信濃毎日新聞社 定価 1400円(税別)

山岸さんから著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。この本は山岸さんが、いろいろなところへ書いてきたエッセイをまとめた本です。3章からなっていて、第1章の「よみがえれ野生のいのち」は希少種の野生復帰にまつわる話、第2章の「したたかな野生のいのち」は行動生態学的な話、第3章の「野生のいのちいつまでも」は自然保護にまつわる話などがまとめられています。どの章も山岸さんならではの文章で読ませてくれますが、ぼく的には第1

章が一番おもしろかったかな。山岸さんの一番最近の仕事でもあるトキやコウノトリの野生復帰について書かれた章ですが、その考え方や見方をおもしろく読みました。気楽に読める本ですので、ぜひ一度手にとってみてください。【植田睦之】



# 参加型調査

## なかなか南下してこなかった？ ～今年のツグミの越冬状況～ 植田睦之

### 例年に比べて・・・？

この冬は冬鳥が少ないと各地の方から聞きました。特に代表的な冬鳥であるツグミについては「まだツグミが来ないのだけど」など心配されて、多くのメールをいただきました。そこで、今年のツグミの飛来状況をアンケート形式で情報収集するとともに、ベランダバードウォッチやモニタリングサイト1000などほかの調査データも使ってまとめてみました。アンケートには114人の方から、計152件の情報をお寄せいただきました。調査へのご協力、ありがとうございました。

アンケートでは「少なかった」か「例年どおり」だったか、「多かった」かを観察場所とともに送っていただきました。そして木の実のなり具合についても備考に記入いただきました。その情報の分布を地図上に落としてみると(図1)、関東以西は「少なかった」との回答が多く、それより北の地域や、関東以西でも標高の高い場所では「例年どおり」や「多かった」との回答が目につきました。つまり暖かい地域ではツグミが「少なく」寒い地域では「多い」ようです。そこで暖かさの指数(平均気温が5℃以上の月の月平均気温-5℃の値を積算したもの)との関係を見てみると、その通り、暖かい地域では少なく、寒い地域では多い傾向が示されました(図2)。

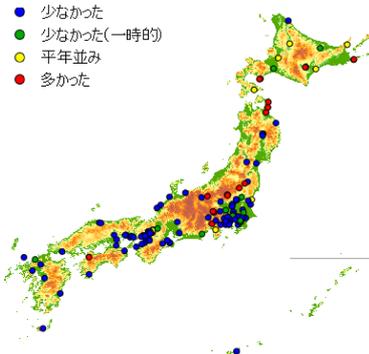


図1. 2011/12年冬のツグミの飛来状況.

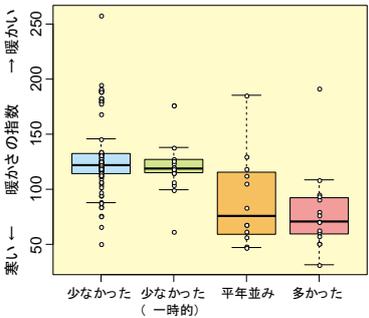


図2. ツグミの飛来状況と暖かさの指数との関係。寒い地域ではツグミが例年より多く、暖かい地域では少ない傾向にあったことがわかる。

### 木の实豊作で南下せず？

次にベランダバードウォッチの結果をみてみました。ベランダバードウォッチでは、月を上中下旬に分けて、それぞれで目撃された個体数を1から6のランク(時々いる, 1~2羽, 3~5羽, 6~20羽, 21~99羽, 100羽以上)で報告してもらっています。そのランクの変化をみてみると、2月上旬までは例年に少なく少ない値だったのが、その後上昇し、例年並みになっていることがわかりました(図3)。

各地の木の実のなり具合は、回答いただいたものは豊作というところがほとんどでした。これらの結果を合わせて考

えると、今年は木の実が豊作で、ツグミは南下する必要がなく、北や標高の高い場所に冬の大部分のあいだ留まっていた可能性があります。そして、南下が遅かったために関東以西の低地でみているとツグミが少なく感じたのかもしれませんが。山地での定量的なデータは少ないのですが、山地に調査地が設定されているモニタリングサイト1000の森林草原調査のコアサイトでは、例年よりも多くのツグミが記録されています(植田 2012)。

ところで、ツグミ以外の冬鳥はどうだったのでしょうか？ ベランダバードウォッチの今年の調査結果を見ると、シロハラやカワラヒワはやや少なかったようです。そして顕著に少なかったのがシメです。記録された数は越冬期を通して少なく、ツグミのように越冬後半に例年並みになったりもしませんでした(図3)。何らかの理由で繁殖地での繁殖成績が悪く、個体数自体が少なかったのかもしれませんが、ツグミよりも身体が小さいだけに、食物の必要量が少なく、越冬期を通してあまり南下する必要がなかったのかもしれませんが。来年の越冬期、シメに注目して観察したいと思います。

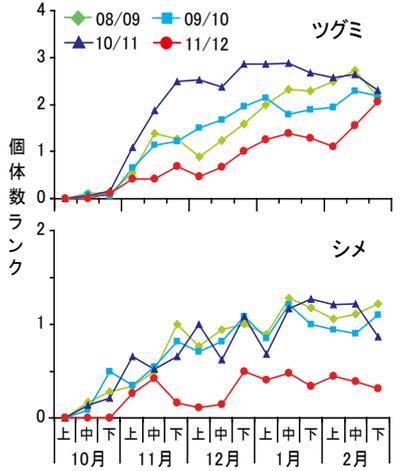


図3. ベランダバードウォッチの結果にもとづくツグミとシメの確認数の季節変動の過去の比較。個体数ランクは、1:時々いる, 2:1~2羽, 3:3~5羽, 4:6~20羽, 5:21~99羽, 6:100羽以上。

### ベランダバードウォッチにぜひご参加を！

こうした何か特異なことが起きた時に、その状況を把握したり、原因を推定するうえで、継続観察されている場所の情報が必要に役に立ちます。今回もベランダバードウォッチの情報が役に立ちましたが、調査地点数は減少傾向にあります。以前調査いただいていた方の調査への復帰、新たな調査への参加をぜひお願いします。

### 研究例会 ツグミの報告 in Ustream

4月7日にバードリサーチの事務所で開いたツグミの越冬状況の報告会の様子はWebにアップしてあるので、下記のURLから動画をご覧になることができます。

<http://www.ustream.tv/recorded/21671768>

#### 引用文献

植田睦之. 2012. 2011年度鳥類調査状況. モニタリングサイト1000 森林・草原調査 コア・準コアサイト調査速報 (4): 4. [http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/Forests\\_and\\_grasslands\\_no4\\_1.pdf](http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/Forests_and_grasslands_no4_1.pdf)

## 参加型調査

### 金環日食の鳥への影響を調べてみませんか？

植田陸之

来たる5月21日、日本の広い範囲で金環日食が見られます。この日食は鳥たちにどんな影響を与えるのでしょうか？2009年7月22日の皆既日食では、森林総合研究所の関さんがトカラ列島の中之島での調査で、鳥たちが鳴きやみ、夜行性の鳥が鳴き出したことを報告しています。金環日食は皆既日食のように真っ暗になるわけではありませんが、夜明けのコーラスの時のように、一斉にさえずりだしたりするかもしれません。

そこで、日食が鳥たちに与える影響を調べてみようと思います。でも、「日食の前日や翌日のさえずり状況も比較のために知りたいし、日食のあいだは鳥の調査をするよりも、日食を見たい」ということで、直接調査をするのではなく、ICレコーダを設置して調査をしようと思います。この調査を手伝ってくれる方は、ICレコーダの設置とその聞き取り（全部ではなくサンプリングして聞き取ります）をお願いいたします。お手伝いいただける方は、植田（[mj-ueta@bird-research.jp](mailto:mj-ueta@bird-research.jp)）までメールにてご連絡ください。貸し出しできるICレコーダの台数には限りがありますので、希望者が多い場合は先着順になりますことをご了承ください。

2009年の皆既日食の際の状況についての論文

[http://www.jstage.jst.go.jp/article/birdresearch/6/0/6\\_A1/\\_article/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/birdresearch/6/0/6_A1/_article/-char/ja/)

## 研究誌 Bird Research より

### ● 今月の新着論文

オナガはツミの防衛行動を利用して、ツミの巣のまわりで繁殖していますが、ツミのカラスに対する防衛行動の変化によって、オナガが行動を変化させていることを示した論文が研究誌に掲載されましたので、ご紹介します。2000年代以降、ツミがカラスを巣の周りから追い払わなくなってから、オナガがツミの巣のまわりで繁殖することは少なくなりました、それでもツミの巣のまわりでオナガが繁殖しているのを見ることがあります。そこで、なぜオナガが繁殖しているツミの巣と繁殖していないツミの巣があるのかを調べたとこ

ろ、最近のツミのまわりのオナガは以前よりも葉に覆われた場所に巣をつくるようになり、そのような好適な巣場所が多くある場所でのみ、ツミの巣のまわりでオナガが営巣していることがわかりました。オナガは1990年代同様、ツミのそばで繁殖しようとしているけれど、ツミの防衛行動が以前ほど頼りにならなくなったために、ツミの巣の近くといえど、隠蔽された場所を選ぶようにしているようです。【植田陸之】

植田陸之. 2012. オナガは好適な営巣場所の有無をもとにツミの巣のまわりに営巣するかどうかを決定する？

Bird Research 8: A19-A23

## 図書紹介

### 名前がわかる野鳥大図鑑

真木広造 (CD: 松田道生) 著 / 永岡書店 定価 1800円 (税別)

松田さんから著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。この本は400種の写真と解説に、さらに99種の鳴き声のCDがついて1800円はお買い得です。大判の本なのでフィールドで持ち歩くのには向いていませんが、その分写真だけでなく文字も大きく行間も広いため読みやすくなっています。細かい字を読むのがつらくなってきた方が家で使うのには良い本だと思います。タイトルは「名前がわ

かる」ですが、識別のための、というよりは、生態などの情報が他の図鑑より充実しているの、観察したあと、自宅で確認し直して知識を得る、という使い方が良さそうです。

【植田陸之】



バードリサーチニュース 2012年4月号 Vol.9 No.4

2012年4月28日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ  
〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9  
TEL & FAX 042-401-8661  
E-mail: [br@bird-research.jp](mailto:br@bird-research.jp)

URL: <http://www.bird-research.jp>

発行者: 植田陸之

編集者: 高木憲太郎

表紙の写真: キジ